

スタートアップとともに スマートシティに進化する高雄市

—未来へ飛躍する台湾の港都—（後編）

日本台湾交流協会高雄事務所次長 是枝 憲一郎

台湾南部最大の都市である高雄市は、今、スタートアップの育成を通じて「スマートシティ」へと進化し、新たな発展を遂げようとしている。

8月号の前編では、高雄市政府が推進するスタートアップ支援政策と現場の様子をお伝えした。今回の後編では、高雄市政府のスタートアップに対する考え方や今後の方向性に触れた後、日本との協力可能性について述べることにしたい。

1. 廖泰翔・高雄市政府経済発展局長インタビュー

これまで紹介してきた高雄市政府によるスタートアップ支援は、高雄市政府経済発展局により行われている。高雄市政府経済発展局の廖泰翔・局長に、高雄市にとってのスタートアップの位置づけや現状についての考え方、日本との協力可能性など、幅広いテーマについてお話を伺うことができた。以下はそのインタビューである。



廖泰翔・高雄市政府経済発展局長（筆者撮影）

（1）高雄市におけるスタートアップの位置づけ（筆者）

高雄市はこれまで重化学工業の街、港湾都市、また、古くは砂糖に始まり、バナナの産地としても知られる農業の街として発展してきたが、現在では、垂湾にITソフト関係企業を集積させることでスマートシティに飛躍を遂げようとしている。そうした中で、スタートアップをどのように位置づけているか。

（廖局長）

これからの高雄市の変貌にスタートアップには重要な役割を担ってもらいたいと考えている。高雄市はこれまで、砂糖・バナナのような農業、造船や石油化学のような産業の街として発展してきたが、これからは変貌を遂げなければならないと考えている。

一つはTSMCのようなハイテク企業を誘致することによってそれを達成しようとしているが、もう一つの方策としては、スタートアップの育成にも力を入れようと考えている。スタートアップと従来型の企業が協力し、新たな発想で新たな製造工程やいいアイデアを産み出せるようにすることを考えている。

インセンティブをこれからも提供しなければならないと考えている。一つ目は、廉価な賃料で使いやすいオフィススペースを提供すること。二つ目は展覧会への積極的な参加。台湾外はもちろん高雄でも展覧会を開催し、高雄のスタートアップが注目され、他の企業に認識されるように努力している。毎年上半期にはスマートシティ展を開催してアピールの場を設けている。また、以前、大

規模展覧会はMeet Taipeiのように台湾北部だけで開催されていたが、3年前からここ高雄で毎年8月頃に大型の展覧会「Meet Greater South」を開催するようになり、昨年の第3回には10カ国から260社の参加を得た。

スタートアップが健康ヘルスケア関連企業や病院とも連携できるように、高雄市政府衛生局や高雄市の病院とも連携している。

大企業がスタートアップと協力する際には大企業に対しても補助金を付与している。協業成果の商品化に関して、大企業はスタートアップと必ず協業しなければならないわけではなく、人材と資金を投じて、スタートアップとの協業の成果を自社で使えるようにしなければならない。このため、スタートアップの成果の活用に必要な研究開発をスタートアップとともに取り組む大企業に対して100万円の補助金を拠出しており、発注が高雄でできるようにしている。

高雄発のスタートアップとして興味深い企業の例を2社挙げたい。一つ目はプロスポーツチームのデータをAIで活用し、選手のスケジュールリングの最適化や戦術的意思決定の支援を行う企業である。二つ目は、産業オートメーションの世界的リーダーである米国のロックウェル・オートメーションと協力し、薬局やクリニックで応用できる「スマート薬箱電子ラベリングシステム」を開発した企業である。現在、大型総合病院と提携するとともに、代理店を通じて病院市場を開拓し、医薬品の分類・選別市場で高いシェアを持つに至った、大企業とスタートアップのマッチング成功例がある。

(2) 高雄市におけるスタートアップ発展の方向性 (筆者)

台湾当局による支援に加えて高雄市政府が各種の支援を行っていることは高雄市の強みであるほか、高雄市政府を通じた高雄市にある重化学工業企業との橋渡しや、スタートアップ支援施設によっては日本語対応の専任スタッフがいることが強みとも伺ったが、その他の点も含めて、高雄市の強みとお考えの点があれば伺いたい。

(廖局長)

AIについて発展させようと考えている。エヌビディア製品を活用したコンピューティングセンターも高雄に進出予定であるほか、TSMCも進出する。コンピューティングセンターとして発展し、地元企業においても生産効率を高めることができるかと考えている。

人材も非常に重要。清華大学と陽明交通大学が高雄に分校を開設することとなっており、清華大学は今年10月、陽明交通大学は来年7月にそれぞれの高雄分校が開校予定となっている。このように高雄で人材を育成していき、その後の発展のために必要な人材をすぐに活用できるようにする。

日台間の経済交流は密接に行われており、高雄市政府としても最も期待しているところ。日本最大のスタートアップ支援企業であるCrewwに高雄市政府によるスタートアップ支援機関の運営を行ってもらうようにした。これによって、高雄のスタートアップが重要な協力相手である日本を向いて仕事できるようになることを期待している。

Crewwの運営の下で日本企業と台湾のスタートアップ企業のMOUも締結されており、日本の製網企業と台湾の海洋プラスチックのリサイクルを行うスタートアップとのMOUなども締結された。日本と台湾の中小企業同士、スタートアップ同士の交流や協力がさらに増えることを期待している。

また、日本には40、50年、あるいは100年の歴史を持つような素晴らしい技術を持つ中小企業があり、半導体材料の製造技術を持つような中小企業もあるが、運営に関して問題を抱えている企業がある。この点、台湾には優位性があるので、日本の中小企業と協力していければと考えている。この半年間でよく見る例としては、そのような方面での協力となっている。

(3) 高雄市の魅力

(筆者)

6月12日の「2024台日新創企業加速国際論壇」に参加した日本企業と話したが、全ての日本企業が、台湾のスタートアップの熱量、技術、観点等、

日本のスタートアップとは異なる点に有用性を感じていたほか、日本との親和性が高そうとの印象や、台湾企業が日本のマーケットに関心を持っているということに注目したという日本企業にお会いしたが、スタートアップの観点からみた高雄市の魅力についてお考えを伺いたい。

(廖局長)

高雄市は工業都市であることからB2Bのマーケットを中心に発展してきたのだが、このB2Bのマーケットが大きいことは大きな魅力と考えている。

さらに、情報関係やソフトウェアサービスの既存企業が多いため、分野に偏りなくスタートアップによる研究開発が可能となっている。たとえば、Skymizerという、コンパイラ技術（ソースコードを機械が読み取れるように変換する仕組みのこと）と最適化ソリューションの専門知識で知られ、大規模言語モデル（LLM）の高速化を追求している企業があるが、この企業の創業者が高雄に来た際、高雄にとっても興味を示した。こうした企業のスタッフは自宅にいてオンラインで仕事をするスタイルだが、毎日、仕事場から海や船の行き来が見える広々とした高雄の景観に魅力を感じていた。仕事のアイデアも浮かんでくるからだが、このような理由から高雄に拠点を置くスタートアップも現れており、こうしたケースが増えてきている。

(4) 日本と高雄市との協力の深化

(筆者)

今回の取材を通じて、台湾企業との協業により台湾でのビジネス拡大にも取り組む日本企業、また、高雄が重化学工業の街であるため、関連分野のスタートアップを含む日本企業との関係をより強固にし、さらに継続していくことが重要と話す日本企業にもお会いしたが、日本と高雄市との協力の深化についてお考えがあれば伺いたい。

(廖局長)

日本企業は台湾より前に進んでおり、中小企業であっても優れた技術を有する企業がある。他方、

台湾は柔軟性や生産性の面で優れている。こうしたお互いの優れた点を活かして高め合うことができるような技術を持った日本企業に高雄市に来ていただければ、よい技術を活かして様々な業界に対応して独自のサービスを提供することができるだろう。

また、AIや農業、医療、工業など全てについて発展できる土壌が高雄市にはあるため、異なる産業分野との協力が可能であり、様々な市場に対応できるので、将来的に国際的企業に発展していける可能性が高雄市にはあると考えている。

日本企業との協力に関して、非常に興味深いスタートアップが高雄市にある。高雄科技大学の教員と学生が一緒に立ち上げたスタートアップで、現在、半導体企業と協力して検証を行っている。この企業は、半導体工場の設計にAI技術を応用し、建設時のパイプや消防設備の配置、地方政府の規制や建設面積の計算、生産ラインの設計といった要素を踏まえた3D設計とモデリングを支援することにより、省エネや建設ロス削減と低コストを実現するような工場建設の効率化を可能にする技術を持っている。

新しいサービスを生み出した日本のスタートアップに高雄市の地元企業を紹介することもできる。また、日本のスタートアップ企業が高雄市に進出しようとした際、スタートアップ支援施設に空室がない場合でも、高雄市政府経済発展局が全面的にサポートする。

(5) 今後の課題

(筆者)

今回、日本の関係者から、台日間のオープンイノベーションでは、これまで政府部門が主導して牽引してきたが、より多くの台湾側の大手や中堅企業が参画するエコシステムを作りたいので、高雄の台湾企業がどのような課題を有しているのかや、その解決のためにスタートアップが必要なのかどうかについても知りたいとの声も耳にしたが、こうした点についてお考えがあれば伺いたい。

(廖局長)

高雄に立地する大企業には台湾国際造船や中国

鋼鉄、台湾中油などの国営企業が多く、よりイノベーションを進めるよう背中を押しているが、今後はさらに力を入れていきたいと考えており、ヒアリングを行って問題を抽出していきたいと考えている。

一つあると考えているのは二酸化炭素排出削減。高雄は全台湾の20%の二酸化炭素を排出している。たとえば、高雄にある中国鋼鉄は2千万トン超の二酸化炭素を排出しているが、これは台北市の1年間の二酸化炭素排出量の2倍に相当する。他方、台湾は2050年のカーボンニュートラル達成を宣言しているが、2050年のカーボンニュートラル達成は非常に困難な目標。このため、国営企業も排出削減に力を入れているが、排出削減努力は情報関連企業やスタートアップと大いに関係がある。新しい装置を導入して生産関連データを把握することや、把握したデータを統合していかに排出削減できるか提案するといったことは、スタートアップと大企業との協力の一つの重要な領域になるのではないかと考えている。

金融関連でも活躍の余地があると考えている。2024年後半、高雄市に金融ハイテクセンターを開設できることになった。これまでは台北にのみ存在しており、高雄は全台湾で2番目となるが、高雄の金融ハイテクセンターではグリーン関係の取扱いが主眼となると考えている。台北の金融ハ

イテクセンターはB2Cを中心に発展してきたが、高雄では高雄の特色を出したいと考えている。

2. 日本と高雄市との協力の未来—むすびにかえて—

高雄市は製造業を中心とする産業基盤を有することから、こうした企業へのアクセスが非常に容易である。さらに、廖局長率いる高雄市政府経済発展局の協力姿勢も大きな魅力といえる。高雄市政府は、工業、商業、農業、医療、海洋など、ビジネスに関わるすべての分野を担当する部局と、工場や病院など現場とのつながりを有しているため、協業者や製品及びサービス需用者を発掘しやすい。

このような強みを持つ高雄市で、誰もが認める柔軟性とスピードを持つ台湾企業と協業することは、日本企業にとっても大きな力になるのではないだろうか。

本稿を通じて、スタートアップとともにスマートシティに進化を遂げている高雄市に少しでもご関心をお持ちいただけたのであれば、是非高雄市に足を運んでいただきたい。高雄市政府をはじめ高雄の様々なプレーヤーとのネットワークを有する私ども日本台湾交流協会高雄事務所もお力になれるものと考えている。